

東京都福祉保健財団の今とこれからをお知らせする

ふりっし



「ふりっし」は、読者の皆様に、東京都福祉保健財団について知っていただき、より連携を深めていくための「架け橋」となるよう名付けました。

今号の内容

- 【特集】高齢者の権利擁護、虐待防止を支援しています！…………… 1・2
- 地域リハビリテーション専門人材育成研修を実施しています！…………… 3
- 生活支援コーディネーター養成研修を開催しました…………… 3
- 介護職員宿舎借上げ支援事業を実施しています…………… 4
- 新刊書籍のご案内…………… 4



特集

高齢者の権利擁護、虐待防止を支援しています！

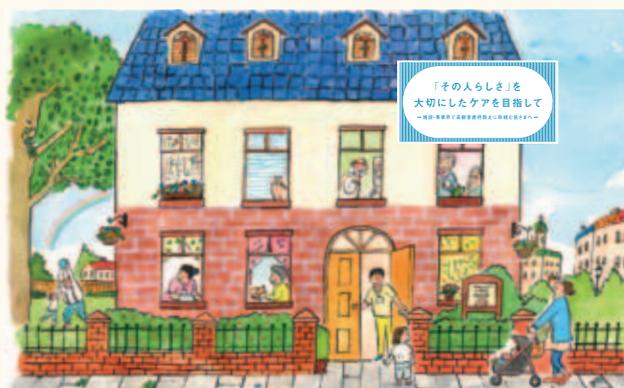
公益財団法人東京都福祉保健財団では、平成21年度から高齢者権利擁護推進事業を都委託事業として実施しています。また、平成26年度から財団の自主事業として「高齢者権利擁護に係る研修支援・調査研究事業」を実施しています。

昨今、残念ながら、介護施設や介護サービス事業所（以下「介護施設等」といいます。）での高齢者虐待が増加の一途をたどっています。一方で、要介護高齢者・認知症高齢者が増加していく中、介護の現場では、スタッフの不足やストレス・負担感の増加、多様な専門的ケアの提供のための人材確保や教育の必要性等、多くの課題を抱えた現状が少なくありません。そして、こうした組織的な課題は、虐待や不適切なケアが生じる要因にもなり得ます。

そこで、当財団人材養成部では、介護施設等における高齢者虐待の防止を推進する一つの方法として、虐待防止の普及啓発小冊子の作成を目指すことにしました。

平成26年度に高齢者虐待防止に取り組まれている介護施設等へのヒアリングを実施し、そのヒアリング結果をもとに、平成27年度は「高齢者虐待防止事例分析検討委員会」を設置し、ヒアリング結果を含む取組み事例の分析・検討を行いました。そして、今年度その委員会での検討内容をまとめた報告書の発行と共に、普及啓発小冊子として『「その人らしさ」を大切にされたケアを目指して一施設・事業所で高齢者虐待防止に取り組む皆さまへ』（以下「小冊子」といいます。）を作成しました。

さらに、小冊子をより深く学ぶことができるように、



本冊子は東京都福祉保健財団の調査研究に基づき、施設利用者や事業者の事例を参考に、知見をまとめたものです。事例はあくまで参考としてご利用ください。施設の実情や状況に応じて適切な対応をお願いします。

東京都福祉保健財団の調査研究に基づき、施設利用者や事業者の事例を参考に、知見をまとめたものです。事例はあくまで参考としてご利用ください。施設の実情や状況に応じて適切な対応をお願いします。

※小冊子の構成：4つの「ある事例」を提示し、幾つかの問いかけを用意し解説しています。事例について、次の見開き等で「関連する知識」についてさらに学べる構成になっています。一冊をとおして一度に学ぶこともできますが、部分的に分割して学習していただくことが可能です。

※小冊子は、財団ホームページ（<http://www.fukushizaidan.jp/105kenriyugo/kanrenshiryo/shousasshi.pdf>）からダウンロードが可能です。

財団ホームページに関連情報等のリンク集を掲載するなど、学習方法の支援にも取り組んでいます。

また、介護施設等が、自ら小冊子を活用して高齢者虐待防止研修を企画・実施することができるよう、具体的な研修方法やファシリテーションスキルを活用した研修企画をテーマに「研修支援セミナー」を企画・実施しました。そして、「虐待、不適切ケアが起こりうるハイリスクな状況についての調査研究」についても取り組んでいます。

特集 高齢者の権利擁護、虐待防止を支援しています！

「ハイリスクな状況・環境等の調査」が目指すもの

高齢者虐待が起りやすいハイリスクな状況や環境（時間や場所、場面等）を把握・公表することにより、介護施設等が自主的にその状況・環境を避けることができ、虐待の未然防止につながると考えられます。しかし、現在の厚生労働省の調査結果からは「ハイリスクな状況」「ハイリスクな環境」を詳細に把握することはできていません。そこで、本事業において、前述の「研修支援セミナー」参加者を対象に「養介護施設従事者等による高齢者虐待や不適切なケアが発生しやすい状況や環境等のアンケート調査」を実施し、「高齢者虐待のハイリスク状況、ハイリスク環境」を分析するために必要な「調査項目の抽出」を目指すこととしました。抽出された調査項目については、厚生労働省への提案につなげるなど、東京都内のみならず広く高齢者虐待防止の一助になるよう、取り組んでいます。

小冊子・研修支援セミナーについてご紹介します

平成28年9月から11月にかけて、施設・居住系の介護施設等を対象に、全4回のセミナーを実施しました。

本セミナーでは、小冊子作成の意図や構成についての説明から、具体的に小冊子を活用した研修方法について、実際に研修を行った際のワーク等も参加者に体験していただきながら解説を行いました。また、研修企画支援として、小冊子を活用した研修企画を立てることを目的に、ファシリテーションスキルを活用しながら、参加者同士で模擬の研修企画会議の演習を実施しました。

定員を超えるお申込みをいただき、介護施設等が自ら虐待防止研修を実施することへの



関心の高さがうかがえました。また、参加者アンケートからは、平均98%の方から「とても良かった」「良かった」との満足の声をいただきました。役立ち度についても、平均94%の方から「とても役に立つ」「役に立つ」との回答をいただき、評価の高いセミナーを実施することができました。

今回のセミナーでは、介護施設等だけではなく、高齢者虐待防止の責務をもつ区市町村（保険者）も対象に含め、保険者による介護サービス事業所等への集団指導や高齢者虐待防止事業の一環として実施する研修での活用も想定して実施しました。実際に、セミナーに参加した区市町村において、管内の介護施設を対象

に区市町村職員が自ら講師を務めて、小冊子を活用した研修を実施しています。



高齢者虐待防止に取り組む介護施設等を応援します

セミナー参加者に対して、セミナー参加後に、実際に自施設等での研修企画を立てていただき、その報告（「研修企画シート」の提出）をお願いしています。同時に、前述の「養介護施設従事者等による高齢者虐待や不適切なケアが発生しやすい状況や環境等のアンケート調査」への協力もお願いしています。

財団では、セミナー参加後の支援として、これらのセミナー参加後の取り組み報告とアンケートにご協力をいただいた介護施設等に対して、小冊子を活用して高齢者虐待防止について学んでいる証として、「ステッカー」の贈呈をしています。



※ステッカーを介護施設等の内外に掲示していただき、高齢者虐待防止に取り組んでいることの一助になることを願っています。

高齢者の尊厳を護り、虐待防止に取り組む先には、介護施設等を利用する高齢者やその家族の笑顔があります。その笑顔を支えることで介護職員や関係者の皆様が仕事に誇りを持ち、笑顔で働くことができるよう、財団では、これからも高齢者の権利擁護の推進に取り組んでまいります。

人材養成部福祉人材養成室
高齢者権利擁護推進事業担当

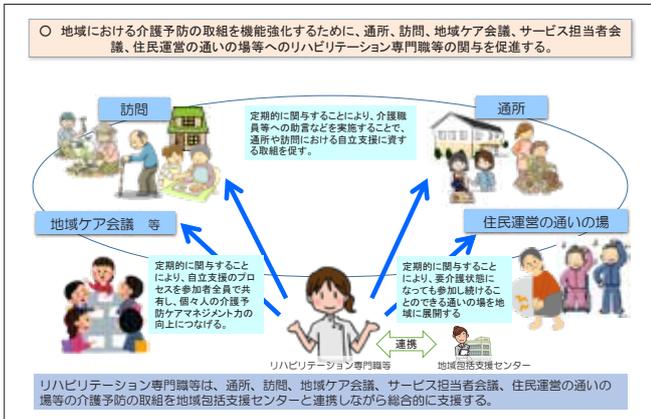
☎03-3344-8628

地域リハビリテーション専門人材育成研修を実施しています！

～地域リハビリテーション専門人材育成研修事業～

当財団では、都委託事業として平成27年度から「地域リハビリテーション専門人材育成研修」を実施しています。

本研修では、リハビリテーションの理念を踏まえて「心身機能・構造」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかける介護予防事業を推進するための人材を養成することを目的としています。高齢者の方々が、それぞれの状態に応じた質の高いリハビリテーションの提供を受けながら、住み慣れた地域で暮らしていくために、リハビリテーションの専門職等の方々が、多職種との連携の必要性を理解し、業務を行う上で必要となる知識及び技術の習得・向上を図るためのプログラムです。



本研修では、「これから地域に出て幅広く活躍したい!」、「そもそも地域でリハビリテーション専門職は何ができるの?」という思いを持った方への初任者研修と、「地域での活動を少しずつ始めている。もっと横の連携を深めたい、情報交換をしたい!」という思いを持った方への現任者研修の、2種類の研修を実施しています。

昨年の9月と10月に実施した初任者研修では、介護保険制度改正や地域におけるリハビリテーション専門職の役割等に関する講義はもちろん、実際に障害を抱えて地域で暮らしている当事者の方の講演や、受講者が事前に整理した課題を持ちより、それぞれの地域での活動について話し合う演習を実施しました。

受講者からは、「介護保険制度やこれからの地域について知る事ができて良かった」、「普段関わることのない他職種と話ができて新鮮だった」という声が多く寄せられ、研修終了後も、お互いに自己紹介や情報交換をするなど、地域での活動の第一歩となるような動きもみられ、充実した研修会となりました。

今年度、12月から2月に開催の現任者研修のカリキュラムは、より実践的な研修内容としており、多くのリハビリテーション専門職等の方が地域で活躍していただけるような研修を実施しています。

人材養成部介護人材養成室
地域リハビリテーション専門人材育成研修担当

☎03-3344-8531

生活支援コーディネーター養成研修を開催しました

～生活支援コーディネーター養成研修事業～

生活支援コーディネーター（以下、「LSC（LSC…Life Support Coordinatorの略）」といいます。）とは、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす者をいいます。

都委託事業として平成27年4月から始まった本研修は、



※実際の研修風景です

都内の区市町村のLSCや今後、LSCの業務に就く予定の方、区市町村職員等を対象に、LSCの業務を行う上で必要な知識及び技術の習得・向上を図るため、LSCの基本理念や具体的なサービスの開発手法等について、講義や演習を通じて学んでいただいています。

平成28年11月に2コースを開催し、181名の方が研修を修了されました。

受講者からは、「色々な自治体の活動の様子を知ることができ、とても勉強になった。」、「細かいところや心の持ちようまでアドバイスいただけて良かった。」、「グループ内で様々な意見が飛び交い、話し合いの中で自身にも新たな発想がうまれるなど、発見があった。」という声をいただきました。

来年度も、このような声を活かして、より充実した研修を実施してまいります。

人材養成部介護人材養成室
生活支援コーディネーター養成研修担当

☎03-3344-8530

介護職員宿舎借り上げ支援事業を実施しています

～介護職員宿舎借り上げ支援事業～

当財団では平成28年度から、介護事業者に対して介護職員の宿舎の借り上げに必要な経費の一部を助成する事業を開始しました。

事業の目的

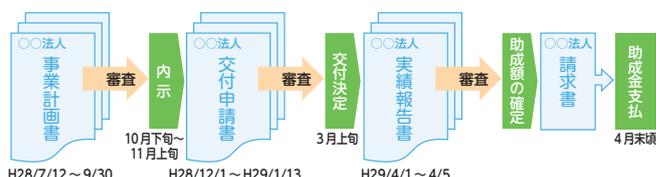
本事業は、都内に所在する介護サービスを提供する民間の事業所等に対し、介護職員の宿舎の借り上げを支援することで、働きやすい職場環境を実現し介護人材の確保定着を図ること、また、事業所等による防災の取組を計画的に進め、地域の災害福祉拠点として災害時の迅速な対応を推進することを目的としています。そのため、助成対象となる事業所は区市町村から福祉避難所の指定等を受けている必要があります。

今年度の状況

5月に「東京都介護職員キャリアパス導入促進事業費補助金説明会」、7月に「東京都社会福祉協議会特養分科会」等にて事業内容の説明を行いました。さらに8月には本事業の概要をわかりやすくまとめたリーフレットを作成し、助成対象

となることが見込まれる事業所宛てに送付しました。また、8月と9月に事務手続き説明会を開催し、92法人99名の方の参加がありました。説明会では、本事業の助成金交付申請を検討中の法人へ事業説明を行うとともに具体的な書類の書き方や疑問点にお答えし、参加者の方からは、「具体的なイメージが分かりました。」「書面のみでは知り得なかった部分を理解できました。」「詳細な点が不明で申請を迷っていたが、前向きに検討できそうです。」等の感想が寄せられました。

その後の助成申請では、54法人（71事業所）から計231戸の事業計画書が提出され、計画書を審査して11月上旬に法人へ内示通知を行いました。さらに、内示を受けた法人には12月から1月上旬の間で交付申請書を提出してもらったところです。現在は、その申請書の審査を行っています。



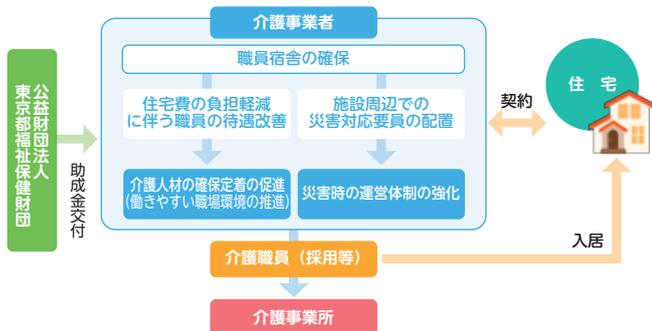
今後の予定

交付申請書の審査を経て3月に交付決定を行います。助成額の確定、助成金の交付は4月上旬に法人からの実績報告書の提出を受け審査後、4月末頃となる予定です。

財団では、助成対象法人からの相談等に細やかに対応し、適正な助成金交付がスムーズに行えるよう取り組んでいきます。

事業者支援部運営支援室
宿舎借り上げ支援事業担当

☎03-3344-8548



新刊書籍のご案内

※ご購入にあたっては、当財団ホームページ内「出版物のご案内」をご覧ください。

介護支援専門員実務研修テキスト



A4判 / 706頁 定価7,000円+税
ISBN978-4-902042-54-2

介護支援専門員実務研修は、医療職等の多職種と連携・協働しながら、適切なケアマネジメントを実践できる介護支援専門員を養成するため、カリキュラムの見直しが行われました。

本書は、国のガイドラインに則した解説や事例のほか、アセスメントは東京都様式（リ・アセスメント支援シート）を使用し、分かりやすく解説しています。

実践！オーラルフレイル対応マニュアル



B5判 / 136頁 定価2,500円+税
ISBN978-4-902042-55-9

「オーラルフレイル」とは、加齢に伴う口腔機能の低下のことを言います。近年では、全身の衰えに大きな関わりがあることが知られてきました。今後、地域包括ケアによる総合的な対策が求められています。

本書では、ささいな口のトラブルから始まる口腔機能の負の連鎖のモデルである、オーラルフレイルの概念を分かりやすく解説するとともに、効果的・効率的な予防・支援の方法について具体的に解説しています。